研究・調査報告書

分類番号		報告書番号	担当
A-136		17-069	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門　三浦克之

題名（原題／訳）

The Relation of Light-to-Moderate Alcohol Consumption to Glucose Metabolism and Insulin Resistance in Nondiabetic Adults: the Moderating Effects of Depressive Symptom Severity, Adiposity, and Sex.

非糖尿病成人における少～中等量飲酒と糖代謝・インスリン抵抗性の関連:抑うつ重症度、肥満度、性の交互作用

執筆者

Edward C. Suarez, Jean C. Beckham, Kimberly T. Green

掲載誌

Int J Behav Med. 2017 Dec;24(6):927-936. doi: 10.1007/s12529-017-9652-5.

キーワード	PMID
飲酒、糖代謝異常、抑うつ、肥満	28688095

要　旨

目的：

抑うつ症状・肥満度・性を交互作用因子として飲酒と糖代謝・インスリン抵抗性(IR)の関連を検討した。

方法：

18~65 歳の健康成人に対し空腹時採血を行い、生活習慣の情報を得た。飲酒量は飲まない、殆ど飲まない(1-3 杯/月)、機会飲酒(1-7 杯/週)、定期飲酒(2 杯/日以上)の 4 群に分けた。うつ症状の重症度判定には Beck Depression Inventory (BDI)を用いた。主要アウトカムは空腹時インスリン、血糖値、HOMA-IR とした。

結果：

単変量解析にて、飲酒量は HOMA-IR (p=0.03), インスリン (p=0.007), BMI (p=0.04)と負に関連していたが、血糖値・BDI とは関連が無かった。BMI などの交絡因子を調整後、BDI と性を交互作用項として組み込んでも、飲酒量は HOMA-IR (p=0.01), インスリン(p=0.009)と関連していた。抑うつ症状がほとんどない女性では軽度～中等度の飲酒は HOMA-IR 低値、インスリン低値と関連していた。抑うつ症状の強い女性や男性では、飲酒量は代謝指標と関連がなかった。BMI を連続変数の交互作用因子とした解析では、飲酒はインスリンとのみ関連を示した (p=0.004)。事後分析として BMI を 25kg/m^2 以上とそれ未満に分けて比較したところ、少～中等量飲酒は BMI≥25kg/m^2 でのみインスリン低値と関連していた。

結論：

少～中等量飲酒が、インスリン・IR に及ぼす効果は性別によって異なり、肥満度・抑うつ重症度による交互作用も認めた。